

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名 (迎山 和司)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など (平成 12-17 年度に限る)

例: (欧文の場合は、原文 **alphabet** で記入してください)

全著者あるいは作者名 (自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

& 著書、学術論文又は作品の名称

\$ 発行所 (総頁数)、発表雑誌又は発表学会 (号・巻・pp・年月)、展覧会 (場所・期間) などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム (招待講演)・一般講演など (地方支部会・全国大会・国際会議) の別

註: 学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

2006 年 11 月 27 日～12 月 01 日	研究室展「アート・コンピューティング」(FUN ミュージアム) "人工知能画家 静(第 4a 版)"と指導学生作品を発表した。
2005 年 09 月 30 日	情報処理学会 第 115 回ヒューマンインターフェース研究会 研究報告
2004 年 05 月 21 日	情報処理学会 第 108 回ヒューマンインターフェース研究会 研究報告
2004 年 03 月 05 日	インタラクション 2004 インタラクティブ発表 "人工知能画家 静 (第 3 版)"を発表した。
2003 年 08 月	カリフォルニア大学サンディエゴ校芸術電算研究所アーティスト インレジデンス
2003 年 06 月 20 日	情報処理振興事業協会未踏ソフトウェア創造事業 採択 "人工知能画家 静 (第 3 版)"が採択された。
2003 年 02 月 27 日	インタラクション 2003 インタラクティブ発表 "人工知能画家 静 (第 2 版)"を発表した。
2002 年 12 月 18 日	フィンランド ヘルシンキデザイン芸術大学メディアラボ Demoday発表 "人工知能画家 静 (第 2 版)"を発表した。
2002 年 12 月 16 日	第十回フィンランド人工知能学会全国大会:論文採択および口 頭発表 "A METHOD TO CONVERT FROM HAND-DRAWINGS

	INTO HIERARCHICAL DATA STRUCTURES"が選ばれた。
2001年08月12日～08月17日	Siggraph2001 アートギャラリー:N-space 選出 "Network Communicate Kaleidoscope"が選ばれた。
2001年02月28日～04月04日	中央ミシガン大学アートギャラリー企画展「Subverting the Market」出展 "Network Communicate Kaleidoscope"が招待された。
2000年10月17日～10月22日	嵯峨美術短期大学・京都メディアアート週間企画展「Media & Analogy」出展 "人工知能画家 静"を発表した。
2000年06月10日	ASCI's Digital'2000 Competition (New York City) 入賞 "Network Communicate Kaleidoscope"が選ばれた。
2000年04月28日	プリ・アルス・エレクトロニカ 2000 ネット部門 入賞 "Network Communicate Kaleidoscope"が選ばれた。
2000年02月28日	カリフォルニア大学ロサンゼルス校デザインメディアアート科にて講演 "Network Communicate Kaleidoscopeのプレゼンテーションを行った。
2000年02月22日～03月03日	「Network Communicate Kaleidoscope」 カリフォルニア大学サンディエゴ校芸術電算研究所レジデンス作品

2) 学会活動 (役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など (平成 12-17 年度に限る)
例:

学会などの名称

& 編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間 (年月)

註: 専門分野によっては適宜変更 (例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

2007年3月 情報処理学会 インタラクシオン2007 運営委員(広報)
2006年7月 情報処理学会 第119回ヒューマンインターフェース研究会/HIP11 函館(招待講演 Miller Puckette 教授) 幹事
2006年3月 情報処理学会 インタラクシオン2006 運営委員(広報)
2005年4月 情報処理学会 ヒューマンインターフェース研究会運営委員(-2007年3月)
2004年4月 情報処理学会会員
2004年4月 芸術科学会会員

3) 研究費獲得状況(未来大学外からの財源)(科学研究費、財団助成金、委任経理金など
(平成12-17年度に限る))

例:

#平成12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究(相手機関の協同研究者数など)

¥研究経費(例:平成12年度;800千円、平成13年度;500千円)

平成15年度経済産業省主管情報処理振興事業協会 未踏ソフトウェア創造事業

「人工知能画家・静」(5000千円)

平成17年度中山科学振興財団 研究助成

「自己組織化マップを用いた絵画を想像する人工知能のデータベース部分の開発」(800千円)

平成17年度野村国際文化財団 芸術文化助成

「アートコンピューティング・ワークショップ」(300千円)

4) その他(特許、内地研究(学内共同研究は除外)および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成12-17年度に限定しない。)

2 教育業績

1) 教育負担の実態（複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ）本項目は時間割に含まれた教科（補講・補習など教室で行なったものは含む）を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。（平成 12-17 年度に限る）

例：

科目名（講義・演習・実習・補講の別）、単位数・必修/選択の別、担当教員数（単独の場合は不要）

& 実施期間（平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月）、実施コマ数（休講しても補講で補えば算定する）、補講をしなかった休講回数（例：実施 13 コマ、休講 2 コマ）

\$ 実働時間数（全て、実時間合計(推定)値でお願いします）、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください（例：実働 22.5 時間）

% 受講登録学生数（例：45 名）、平均的出席者数（例：38 名；初めは 40 名、終りは 25 名など）、単位認定（合格）者数

註：本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

[平成 13 年度]

・倉敷芸術科学大学非常勤講師 映像実習 VI-b（実習）実施コマ数：30 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：15 名

・倉敷芸術科学大学非常勤講師 映像実習 II-b（実習）実施コマ数：30 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：15 名

[平成 14 年度]

・倉敷芸術科学大学非常勤講師 映像実習 VI-b（実習）実施コマ数：30 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：15 名

・倉敷芸術科学大学非常勤講師 映像実習 II-b（実習）実施コマ数：30 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：15 名

[平成 15 年度]

・情報表現基礎 II（講義）2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：35 名、平均出席者数：34 名、単位認定者数：35 名

・情報表現基礎演習 II（演習）2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：35 名、平均出席者数：34 名、単位認定者数：35 名

・情報デザイン II（講義）2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：23 名、平均出席者数：20 名、単位認定者数：21 名

・情報デザイン演習 II（演習）2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休

講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：23 名、平均出席者数：20 名、単位認定者数：21 名

・システム情報科学実習 I (実習) 2 単位、必修、実施コマ数：40 コマ、実働時間数：60 時間、受講登録者数：21 名、単位認定者数：21 名

・システム情報科学実習 II (実習) 2 単位、必修、実施コマ数：40 コマ、実働時間数：60 時間、受講登録者数：21 名、単位認定者数：21 名

・卒業研究 (実習) 8 単位、必修、実施コマ数：80 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：3 名、単位認定者数：3 名

・現代デザイン論 (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：1 コマ (岡本先生担当科目のうち 1 コマ分を担当)、実働時間数：1.5 時間、受講登録者数：約 150 名

・倉敷芸術科学大学非常勤講師 映像実習 VI-b (集中講義) 実施コマ数：30 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：15 名

[平成 16 年度]

・情報表現基礎 II (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：44 名、平均出席者数：43 名、単位認定者数：43 名

・情報表現基礎演習 II (演習) 2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：44 名、平均出席者数：43 名、単位認定者数：43 名

・情報デザイン II (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：28 名、平均出席者数：26 名、単位認定者数：23 名

・情報デザイン演習 II (演習) 2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：28 名、平均出席者数：26 名、単位認定者数：20 名

・卒業研究 (実習) 8 単位、必修、実施コマ数：80 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：4 名、単位認定者数：4 名

・現代デザイン論 (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：1 コマ (岡本先生担当科目のうち 1 コマ分を担当)、実働時間数：1.5 時間、受講登録者数：約 150 名

[平成 17 年度]

・情報表現基礎 I (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：46 名、平均出席者数：45 名、単位認定者数：45 名

・情報表現基礎演習 I (演習) 2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休

講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：46 名、平均出席者数：45 名、単位認定者数：45 名

・情報デザイン II (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：28 名、平均出席者数：24 名、単位認定者数：24 名

・情報デザイン演習 II (演習) 2 単位、選択、実施コマ数：15 コマ×1 クラス=15 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：22.5 時間×1 クラス=22.5 時間、受講登録者数：28 名、平均出席者数：24 名、単位認定者数：23 名

・システム情報科学実習 I (実習) 2 単位、必修、実施コマ数：40 コマ、実働時間数：60 時間、受講登録者数：12 名、単位認定者数：12 名

・システム情報科学実習 II (実習) 2 単位、必修、実施コマ数：40 コマ、実働時間数：60 時間、受講登録者数：12 名、単位認定者数：12 名

・卒業研究 (実習) 8 単位、必修、実施コマ数：80 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：2 名、単位認定者数：2 名

・現代デザイン論 (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：1 コマ (岡本先生担当科目のうち 1 コマ分を担当)、実働時間数：1.5 時間、受講登録者数：約 150 名

[平成 18 年度]

・情報表現基礎 I (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：14 コマ×1 クラス=14 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：21 時間×1 クラス=21 時間、受講登録者数：42 名、平均出席者数：41 名、単位認定者数：40 名

・情報表現基礎演習 I (演習) 2 単位、選択、実施コマ数：14 コマ×1 クラス=14 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：21 時間×1 クラス=21 時間、受講登録者数：42 名、平均出席者数：41 名、単位認定者数：40 名

・情報表現基礎 II (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：14 コマ×1 クラス=14 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：21 時間×1 クラス=21 時間、受講登録者数：46 名、平均出席者数：43 名、単位認定者数：44 名

・情報表現基礎演習 II (演習) 2 単位、選択、実施コマ数：14 コマ×1 クラス=14 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：21 時間×1 クラス=21 時間、受講登録者数：46 名、平均出席者数：43 名、単位認定者数：44 名

・情報デザイン II (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：14 コマ×1 クラス=14 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：21 時間×1 クラス=21 時間、受講登録者数：26 名、平均出席者数：16.5 名、単位認定者数：18 名

・情報デザイン演習 II (演習) 2 単位、選択、実施コマ数：14 コマ×1 クラス=14 コマ、休講 0 コマ、実働時間数：21 時間×1 クラス=21 時間、受講登録者数：26 名、平均出席者数：16.5 名、単位認定者数：18 名

- ・ システム情報科学実習 I (実習) 2 単位、必修、実施コマ数：40 コマ、実働時間数：60 時間、受講登録者数：15 名、単位認定者数：15 名
- ・ システム情報科学実習 II (実習) 2 単位、必修、実施コマ数：40 コマ、実働時間数：60 時間、受講登録者数：15 名、単位認定者数：15 名
- ・ 卒業研究 (実習) 8 単位、必修、実施コマ数：80 コマ、実働時間数：120 時間、受講登録者数：9 名、単位認定者数：9 名
- ・ 現代デザイン論 (講義) 2 単位、選択、実施コマ数：1 コマ (岡本先生担当科目のうち 1 コマ分を担当)、実働時間数：1.5 時間、受講登録者数：約 150 名

2) 成績評価方法 (その方法を具体的に記載・学生 (社会) が納得するような具体的説明。) また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

情報表現基礎 1 及び基礎演習 1

- ・ **コンセプト**：作品のプランニング段階で制作意図やコンセプトの確認を行う。制作意図やコンセプトが明快で独自性のあるものを評価対象として保障し、実制作での失敗を恐れさせずに実行を促している。
- ・ **技術**：客観性のある評価対象として技術的な熟練度のあるものを評価する。多少技術が未熟であっても制作態度が良く丁寧に作り込まれたものを評価する。
- ・ **完成度**：客観性のある評価対象として作品の完成度が高いものを評価する。制作態度が良く丁寧に作り込まれたものを評価する。また、完成度が多少足りなくても結果的に作品の勢いに繋がるものも同等に評価する。
- ・ **創造性**：着目点が新しく発想に独自性のあるものを評価する。技術・完成度が未熟であっても作品としてバランスが良く色彩または造形性に富んでおり、感性が豊かであると思われるものを評価する。
- ・ **口頭によるプレゼンテーション**：批評会での作品プレゼンテーションにおいて制作意図や作品解説などを簡潔に旨く伝える言語化能力を評価する。

情報表現基礎 II 及び基礎演習 II

- ・ **コンセプト**：作品のプランニング段階で制作意図やコンセプトの確認を行う。さらに制作意図やコンセプトはドキュメント化して提出させ、最終的な提出作品と同等に評価するというように位置付けている。制作意図やコンセプトは明快で独自性のあるものを評価対象として保障し、実制作での失敗を恐れさせずに実行を促している。
- ・ **技術**：客観性のある評価対象として技術的な熟練度のあるものを評価する。多少技術が未熟であっても制作態度が良く丁寧に作り込まれたものを評価する。
- ・ **完成度**：客観性のある評価対象として作品の完成度が高いものを評価する。制作態度が良く丁寧に作り込まれたものを評価する。また、完成度が多少足りなくても結果的に作品の勢いに繋がるものも同等に評価する。

・創造性：着目点が新しく発想に独自性のあるものを評価する。技術・完成度が未熟であっても作品としてバランスが良く色彩または造形性に富んでおり、感性が豊かであると思われるものを評価する。

・口頭によるプレゼンテーション：批評会での作品プレゼンテーションにおいて制作意図や作品解説などを簡潔に旨く伝える言語化能力を評価する。

情報デザイン II

課題内容：レポート（講義内容をもとに、課題内容のデザイン展開における具体的実践の考察を主体とする。情報デザイン演習 I で製作する内容の企画立案、プロセス及び結果を記述項目として設定している）。

評価方法：レポートの内容に基づき評価。評価項目として、講義の主眼点である動的情報の抽出、検討、展開等に関する情報デザインプロセスを的確に理解していることを重視している。

それをはかる目安として

- ・デザイン理論の展開方法
- ・デザイン展開を実践するための計画

などが適切に考察されているかという点を中心に評価を行なっている。

情報デザイン演習 II

課題内容：情報デザイン II の講義内容に基づき、その具体的デザイン展開を作品制作を通じて実践する。その際、情報デザイン II の課題レポートとして作成した企画書をもとに作品を制作している。課題数：1。

評価方法：演習課題の制作内容に基づき評価。評価の視点として以下の点を重視している

- ・デザイン理論の具体的展開の考え方・捉え方
- ・作業技術の習得度合
- ・作業の丁寧さの度合

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

・赴任時に担当する授業に関して他の同様の授業をする教員の授業の見学とヒヤリングをおこなった。

・他の教員のアドバイスに基づき、授業ドキュメントを改善した。

・教員の一方的な評価をさげ、学生がお互いに評価することで評価の公正さ目指した。

・学生のやる気を促すために否定的な言動を避けた。

・外部研究機関 (大川センターCAMP) のワークショップに参加した。

・アートコンピューティングと題したワークショップを開催し、外部講師の授業の進め方を参考にして未来大学学生に則した実習の調査をした。

- ・学生の成果の経過を地元メディアに働きかけることによって取材をしてもらった。このこと
によって学生の地域貢献の意識と積極性と促した。
- ・学生の成果物作品を様々な公募や発表に応募するように応援した。うち、1名がコンピュー
タ科学のシンポジウムに入賞。2名の学生がアート&デザインにおける全国公募に入賞。3名
と1グループが学内賞を受賞した。

4) その他（上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている（コース別）講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。）

・特別研究費 B6 アートコンピューティング・ワークショップ コーディネイター

2004年10月28,29,30日

山宮 隆(未踏ソフトウェア創造事業スーパクリエイタ認定)、江渡 浩一郎(産業総合研究所研究員)を講師として招きワークショップを行った。

・KKR 短期研究者滞在プログラム アートコンピューティング・ワークショップ コーディネイター

講演 「メディアアート：その歴史と体験」

2005年10月19日 中井恒夫(京都市立芸術大学教授)

・野村国際文化財団助成 アートコンピューティング・ワークショップ コーディネイター

2005年11月12,13日「Instants en suspens: クロノ・インタラクティブによる点と線」

ジャン=ルイ・ボワシエ(パリ第8大学教授)

竹内 創(パリ第8大学インタラクティブ美学研究所研究員)

・秋葉原サテライトオフィス有効活用 未来パーティ(アートコンピューティング) コーディネイター

2005年10月28日 Squeakers Night

2005年12月17日 汽水城

2006年02月28日 ユビキタス・ガジェット

・KKR 短期研究者滞在プログラム コーディネイター

講演 「メディアアート：その歴史と体験」

2006年07月06日 Miller Puckette(アメリカ・UCSD 音楽学部教授)

・秋葉原サテライトオフィス有効活用 未来パーティ（アートコンピューティング） コーディネーター

2007年01月27日 デモ「Squeakers' Night in 未来パーティ 2.0」

・大学院博士(前期)課程・

2007年02月 修士論文1名 副査読者

3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。（平成12-17年度に限る）

[平成15年度]

人権委員会・委員

クラス担任

[平成16年度]

国内国際地域交流委員会・委員

教務委員会プロジェクト学習ワーキンググループ・委員

高校訪問（函館白稜高校）

クラス担任

グラフィック工房・管理運営

入試問題作成

[平成17年度]

国内国際地域交流委員会・委員

広報委員会オープンキャンパスワーキンググループ・委員

情報ライブラリー委員会・委員

クラス担任

グラフィック工房・管理運営

入試問題作成

クラブ活動顧問（畑部）

[平成18年度]

教務委員会プロジェクト学習ワーキンググループ・委員

広報委員会オープンキャンパスワーキンググループ・委員

オープンキャンパス・情報デザインコース紹介展取りまとめ

グラフィック工房・管理運営

入試問題作成

クラブ活動顧問 (畑部)

4 その他

資格 (技術士など)、地域への貢献 (地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演) あるいは提言・御意見など。(平成 12-17 年度に限る)